

富山高専専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	海事システム工学特別研究Ⅰ	
科目基礎情報							
科目番号	0005			科目区分	専門 / 必修		
授業形態	実験・実習			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	海事システム工学専攻			対象学年	専1		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材							
担当教員	経田 僚昭,山田 圭祐,山本 桂一郎,保前 友高,山谷 尚弘,松村 茂実,檜谷 亮一,小林 大,池野 一成,中谷 俊彦,笹谷 敬二,西井 典子,向瀬 紀一郎,福留 研一,金山 恵美,中松 英也						
到達目標							
1,2年を通して、同一の海事システムに関わる特別研究テーマについて指導教員のもとで、文献調査の方法、実験的、理論的解析法、評価方法を修得し、研究推進能力を育成する。研究計画、研究方法及び研究の途中結果を自ら理解し、研究成果を学会で発表できる能力を養う。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	研究テーマに沿った考察対象に関する見解をまとめてあり、その内容が論理的に構築され、問題解決のための仮説が適切に立てることができる。		研究テーマに沿った考察対象に関する見解をまとめてあり、その内容が論理的に構築され、問題解決のための仮説を立てることができる。		研究テーマに沿った考察対象に関する見解をまとめてあり、その内容が論理的に構築され、問題解決のための仮説を立てることができない		
評価項目2	的確に表現され、意図を聴衆に伝えるに十分なプレゼン資料を作ることができる。		意図を聴衆に伝えるためのプレゼン資料を作ることができる。		意図を聴衆に伝えるためのプレゼン資料を作ることができない		
評価項目3	的確に表現され、意図を聴衆に伝えるに十分な研究予稿を作ることができる。		意図を聴衆に伝えるための研究予稿を作ることができる。		意図を聴衆に伝えるための研究予稿を作ることができない		
学科の到達目標項目との関係							
ディプロマポリシー C-3							
教育方法等							
概要	研究に関する計画、方法、評価とまとめからなる総合的な研究開発能力、特に、まとめる力である論文作成能力とプレゼンテーション能力を高めるものである。						
授業の進め方・方法	海事システム工学に関する総合的な創造的研究開発能力を育成するため、指導教員のもとで、文献調査、理論解析、実験、ディスカッションなどの能動的実践を行う。成果は校内の発表会等で審議される。このような体験を通じ、技術者として要求される計画性と発表能力を養う。						
注意点	報告会での成果を3名（主査1名および副査2名）の教員で評価する。60点以上で認定。 研究活動に対する取り組み姿勢は、週報などをもとに評価する。 なお、海洋資源環境学連携教育プログラムにあっては、東京海洋大学海洋資源環境学部にて開設される卒業論文に関する科目を履修することで読み替えるができる。						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	特別研究				
		2週	特別研究				
		3週	特別研究				
		4週	特別研究				
		5週	特別研究				
		6週	特別研究				
		7週	特別研究				
		8週	特別研究				
	2ndQ	9週	特別研究				
		10週	特別研究				
		11週	特別研究				
		12週	特別研究				
		13週	特別研究				
		14週	特別研究				
		15週	特別研究				
		16週	特別研究				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	取り組み姿勢	合計
総合評価割合	0	70	0	0	0	30	100
基礎的能力	0	35	0	0	0	15	50
専門的能力	0	35	0	0	0	15	50
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0